

■ 伊藤新道～竹村新道縦走山行

■ 2024年9月14日(土)～17日(火)

■ 参加者：パワーゾーンツアー(ガイド2名、参加者10名)、森川(記)

■ 費用：晴嵐荘 ¥14000×2泊、三俣山荘 ¥16000

■ 行動記録

9/13 19:50 自宅 (名阪国道・伊勢湾岸道・東海環状・中央道経由) ⇒23:53 恵那峡 S A

9/14 5:45 恵那峡 S A ⇒9:20～10:00 松本駅 ⇒11:30～121:10 七倉 ⇒12:40～13:00 高瀬ダム  
⇒13:56～14:12 林道終点 ⇒16:00 晴嵐荘

9/15 5:10 晴嵐荘 ⇒5:42 噴湯丘 ⇒6:40 ガンダム岩 ⇒9:20～40 第五吊り橋跡 ⇒13:10 展望台  
⇒14:00 第一庭園 ⇒15:15 伊藤新道分岐 ⇒15:22 三俣山荘

9/16 5:30 三俣山荘 ⇒6:47～7:12 鷲羽岳 ⇒8:36～9:05 水晶小屋 ⇒9:40 東沢乗越 ⇒11:13 竹村新道分岐  
⇒12:06～40 南真砂岳 ⇒14:05～16 湯俣岳 ⇒16:20 晴嵐荘

9/17 7:00 晴嵐荘 ⇒8:40～50 林道終点 ⇒9:45～55 高瀬ダム ⇒10:40～11:00 七倉 ⇒12:00 松本駅

■ 昨年(2023年)の夏、北アルプスの伊藤新道が約38年ぶりに復活したのだが、それを知ったのは某ツアー会社のレポートだった。今年の春数人とその話をしたら、行ってみたいという声はあったが条件がそろわず、結局私一人なのでツアー参加で行くことにした。当日集合場所の松本駅に集まったのは参加者10名にガイド2名、参加者は50～70才代(最高齢は79才だが一番しっかりと歩かれていた)でいずれも経験豊富なメンバーだった。車で七倉まで移動すると3連休で駐車場は満杯だったが、運よく停めることができた。タクシーを乗り継ぎ高瀬ダムまで移動して出



高瀬ダム、正面は烏帽子岳から南沢岳



晴嵐荘前のジップライン、一人で渡るの腕力が必要

発。今日は湯俣温泉の晴嵐荘まで約3時間の水平移動、湯俣山荘で登山届をだしコースの情報を仕入れてから最後にジップラインで川をわたると晴嵐荘だ。3連休で多くのテントで賑わっている。翌日は午前3時頃から雨が降ったがすぐにやみ星空が広がった。暗いうちからヘッドで伊藤新道に多くの人が入っていったが、我々は明るくなった5時過ぎに出発、コースは湯俣川を右岸、左岸と徒渉を15回以上繰り返す、上流を目指す。水位は太ももから股くら



このような徒渉を15回以上くりかえす



行く手には湯けむりがあがっている

いまでで第一吊橋は利用可能ながら他は吊橋も栈道も使えない。天然記念物の噴湯丘からさらに上流に向けてすすむ。一番の難所と言われるガンダム岩は、湯俣山荘の情報では今回は水量がすくないため足元をへつって通過、その後もへつりや徒渉を繰り返し第五吊橋を過ぎた広い河原で沢靴を登山靴に履き替える。丁度この頃から天気予報の通り小雨がぱらつく。ここまで約4時間、技術的に難しいところはなく条件（水量や天気）が良ければ楽しい沢歩きだが、個人的に来る場合、徒渉地点は目印が少ないので自分で判断しなければならない。さてここからは一般登山道



天然記念物の噴湯丘、高さは3mほど



唯一使える第一吊橋



途中見かけた、カラ松の新芽がきれいだ



第五吊橋付近で徒渉は終わり、正面右のむき出しの斜面を登る

で三俣山荘までは標高差約850m、急登の尾根を一つ越えて赤沢を横断、少し上流の大岩にロープを頼りに登ると、ここから標高差約300mは道の良くない急坂で、ところどころ木の根やロープを頼りに登る。雨は降ったりやんだり足元がぬかるんでくる。途中左手に硫黄尾根が現れるが上の方はガスで霞んでいる。急登を登りきると道も良くなり緩やかな勾配の尾根路が続く。第一庭園をすぎるとトラバース道になりやがて前方斜面に三俣山荘に続く道が見える。稜線の鷲羽岳への分岐を過ぎ平坦な道をしばらく行くとようやく三俣山荘に到着した。3連休で小屋は満杯の



ぬかるんだ急坂をロープを頼りにのぼる



左手に霞む硫黄尾根

ようだ。3日目は鷲羽岳から水晶小屋を経て竹村新道の長い下りだ。小屋についてから夜中降り続いた雨は朝方には上がり、一瞬ガスの切れ目から槍が見えたがすぐ隠れてしまい、真っ白な中を出発。鷲羽への登りで徐々にガスは上がっていき青空と眺望が広がり始める。鷲羽岳の山頂からは青空の広がる360度の眺望、遠く御岳や白山も雲海の向こうに見えるが、ワリモ岳を過ぎるころには南の方はガスで隠されはじめ、水晶小屋では南の方はガスで見えず、北の方に眺望はひろがる。東沢乗越を経て竹村新道分岐に着くころには眺望はほとんどガスに閉ざされてしまったが、雨の心配はなさそうだ。竹村新道は長いトラバースから始まり急な草付きの斜面の下り、細い稜線を経て南真砂岳から三角点のある湯俣岳を過ぎると、樹林の中をひたすら下る。いい加減に嫌になったころ眼下に湯俣川を見下ろす展望台に到着、奥に槍が見えるそうだが雲に隠れていた。さらに約30分の下りでようやく晴嵐荘に到着した。翌日は平日のためかテントもほとんどなく、宿泊客も少ない。最終日はアップダウンのない3時間程度の行程なので午前7時頃出発、今日も青空が広がっている。ジップラインで対岸に渡り高瀬川沿いに約3時間で高瀬ダムに到着。



鷲羽岳の南斜面をトラバースする伊藤新道



鷲羽岳からの鷲羽池と槍穂連峰



鷲羽岳から水晶岳に続く稜線



水晶小屋からの野口五郎岳方面



水晶小屋から水晶岳に続く尾根



竹村新道入口からのトラバース道



展望台から昨日歩いた湯俣川、あと晴嵐荘まで約30分  
ここでタクシーを乗り継ぎ七倉につくと、駐車場はまだ多くの車で埋まっていた。ここまで来るとまだまだ日差しが強く日陰で休憩の後、松本駅で昼過ぎに解散した。



最終日、高瀬ダムに続く道、平坦で歩きやすい